

外 国 語

1 学習指導と評価の改善・充実

学習指導要領の外国語科の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う」ことであり、このことを達成するためには、次の点に留意し、学習指導と評価の改善・充実を図ることが必要である。

(1) 学習指導の改善・充実

中学校で音声によるコミュニケーション活動が重視されていることを踏まえて、教員が主に英語で授業を展開し、聞くことと話すことの活動を多く取り入れること。

一つの領域に重点を置いて学習する場合でも、他の領域と関連付けた活動を行い、学習を実際的で効果的なものとするとともに、生徒による自己評価（資料2）や相互評価を適切に取り入れるなどして授業改善を図ること。

(2) 評価の改善・充実

学習指導要領の外国語科の目標に照らしながら、4つの観点別学習状況の評価を基本として、生徒の学習の実現状況を適切に評価すること。

学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要であり、各学校において、教材の単元ごとに具体的な評価規準を設定し、評価計画を作成すること。

各学校において評価についての考え方を深め、評価規準や評価方法の工夫改善を一層進めていくため、校内研修等を通じて教員一人一人の力量を高めていくこと。

(3) 平成14年度教育課程実施状況調査結果の概要（調査対象科目：英語）

ア ペーパーテスト調査の結果の概要

英語 においては、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計は、52問中36問であり全体の問題数の半数以上を占めている。

(ア) 内容・領域、観点等からみた特色と調査結果を踏まえた指導上の改善点

	内容・領域、観点等からみた特色	調査結果を踏まえた指導上の改善点
聞くこと	英語を聞いて、詳細を理解することや概要及び要点を理解することはある程度できるが、相手の話す内容や意図をとらえて適切に応答する力は十分ではない。	まとまりのある会話を聞く練習や、ペア・ワークなどで相手の言ったことを確認したり、聞き返したりする練習を行うなど、聞くことと話すことを組み合わせた指導の充実を図る必要がある。
読むこと	内容を整理して読むことや、概要や要点を適切に把握して読むことはよくできるが、英文を細部にわたり正確に読み取る力は十分ではない。	多くの英文に親しませ、語彙や構文等の意味や用法を英文を通して身に付けさせる指導や、文脈や文法を手掛かりとして意味を推測しながら読む力を身に付けさせる指導の充実を図る必要がある。
書くこと	短い文や正しい語順で文を書くことはある程度できるが、まとまりのある一貫した文章を書く力は十分ではない。また、無解答率が高く、英語で表現する意欲が十分ではない。	英語で表現する機会を十分に与えるなど書く力を向上させる指導の充実を図る必要がある。また、書くことと話すことの活動を組み合わせるなど、表現する意欲を高める指導の工夫が求められる。

(イ) ペーパーテストの問題の分析 (問題は、一部抜粋)

【問題例 問題 B 8】 言語活動：「書くこと」

B 8
これまでのあなたの高校生活を振り返って、最も楽しかったことは何ですか。 その理由も含めて、英語で4文以上のまとまりのある文章を書きなさい。ただし、最初の文は I enjoyed に続けて書き始めなさい。
I enjoyed ----- ----- -----
(注：実際の解答欄は、解答できるだけの十分な行数がある。)

【問題の分析と考察】

問題番号	設定のねらい	評価の観点	問題形式	通過率 (%)	設定通過率 (%)
B 8	内容を考えて英語で書く	【関心・意欲・態度】 【表現の能力】	記述	20.2	45

次の英文は、上記の問題に係る生徒の解答 (誤答) 例の一つである。

.. I enjoyed playing basketball. For I was bad at it, but I was gradually good at it. I wish I played again. I will continue to play basketball.
--

この解答 (誤答) 例では「バスケットボールは上手ではなかったが、だんだんうまくなったので、これからも続けようと思っている。」ということ述べているのではないかと推測できるが、文を接続するために用いた接続詞 for、but の使い方に誤りがあり、明確な理由を示すことになっていないので、全体としては、まとまりのある文章にはなっていないと考えられる。

イ 質問紙調査の結果の概要

(ア) 生徒質問紙

「英語の勉強は大切だ」、「英語を勉強すれば私のふだんの生活や社会生活の中で役立つ」、「英語の勉強は、入学試験や就職試験に関係なくても大切だ」等の質問に対する肯定的な回答の割合はおよそ 60% 以上で英語あるいは英語学習に対する重要性の認識は高いが、「英語の勉強が好きだ」という質問に対する肯定的な回答の割合はおよそ 40% である。

(イ) 生徒質問紙と教師質問紙との比較

「外国の人々の言葉、文化、くらしについて学ぶ学習」については、「好きだった」と答えた生徒の割合が 44.3% であるのに対して、「生徒が興味を持ちやすい」と答えた教師の割合が 87.7% となっており、生徒と教師の間に意識の違いが見られた。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実
 ~ 思考力・判断力・表現力等を育成する取組 ~

(1) 評価計画表の具体例

科目名 英語 単元名 Lesson 2 My Daily Life

科目名	英語				
単元名	Lesson 2 My Daily Life				
単元の目標	(1) ペア・ワークなどにおいて、英語で積極的に話す。 (2) 一日の生活や過去の出来事を説明する場面にふさわしい表現を選択して話す。 (3) 伝えたい情報を書く。 (4) 対話を正しく聞き取る。 (5) 本文を読んで概要や要点を把握する。 (6) 現在形・過去形の文の意味と用法を理解する。				
評価の観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解	
内容のまとめり(学習活動)ごとの評価規準	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。(話すこと)	日常的な話題について、得た情報や自分の考えを英語で正しく書くことができる。(書くこと) 日常的な話題について、場面や目的に応じて話すことができる。(話すこと)	日常的な話題についての英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとしていることを正確に理解することができる。(聞くこと) 日常的な話題についての英語を場面に依じて適切に読み取ることができる。(読むこと)	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 (言語についての知識) 現在形・過去形の文の意味と用法を理解している。 一日の生活や過去の出来事を説明する時に用いられる表現を知っている。	
単元における具体的評価規準	(言語活動への取組) ペア・ワークにおいて英語で積極的に話している。(話すこと)	(正確な筆記) 伝えたい情報を書くことができる。(書くこと) (適切な発話) 一日の生活や過去の出来事を説明する場面にふさわしい表現を選択して話すことができる。(話すこと)	(正確な聞き取り) 聞いた内容について正しく理解することができる。(聞くこと) (適切な読み取り) 読んだ内容について概要や要点を把握することができる。(読むこと)		
[単元の目標及び評価の観点と評価の場面との関係] 「単元の目標」を、それぞれ評価できる観点と評価規準に当てはめる。 単元の目標(1) 「~において、英語で積極的に話す。」(話すこと)では、「関心・意欲・態度」の観点で評価する。 単元の目標(2) 「一日の生活~を選択して話す。」(話すこと)では、「表現の能力」の観点で評価する。 単元の目標(3) 「伝えたい情報を書く。」(書くこと)では、「表現の能力」の観点で評価する。 単元の目標(4) 「対話を正しく聞き取る。」(聞くこと)では、「理解の能力」の観点で評価する。 単元の目標(5) 「本文を読んで~を把握する。」(読むこと)では、「理解の能力」の観点で評価する。 単元の目標(6) 「現在形・過去形の文の意味と用法を理解する。」では、「知識・理解」の観点で評価する。 「評価方法」の欄の ア 参照 「評価方法」の欄の イ 参照 「評価方法」の欄の ウ 参照 「評価方法」の欄の エ 参照 「評価方法」の欄の オ 参照 「評価方法」の欄の カ 参照					
【評価方法】 (4つの観点と内容のまとめりごとの関係)	観点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
	聞く			エ	カ
	読む			オ	
	話す	ア	イ		
書く		ウ			
(ア~カについては、評価の場面を表す。)					
単 位 時 間	ねらい・学習活動	具体的評価規準との関連	評価方法等		
1	本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 現在形の文の意味と用法を理解する。 (1) Warm-upとして、JTEとALTのそれぞれの一日の生活についての対話を聞く。 (2) 中学校で学んだ一日の生活を説明する時に用いられる表現を確認する。 (3) 習慣的な動作について話す時には現在形で表現することを確認する。 (4) 現在形を用いた文の意味と用法を理解する。 (5) ペアで一日の生活についての対話を行い、一日の日程を書いたワークシートを完成する。 (6) 絵を見て、その動作を表す動詞と主語が3人称・単数の時の動詞の形をワークシートに記入し、答えを確認する。	関心・意欲・態度	方法：活動の観察 ア 手順：英語で話しているかどうかを観察する。 判断：英語で話していれば と評価する。 (話しやすい雰囲気を作る。)		
2	現在形を使って積極的に表現する。 (1) 現在形の用法について、再度確認する。 (2) 一日の生活についてグループ(3人程度)内で各自3つ以上質問し、質問と相手の答えをワークシートに書く。 (3) (2)で得た情報をグループ内の他のメンバーに質問する。(例：What time does A get up every morning? --- At six thirty. など)	表現の能力	方法：ワークシートチェック ウ 手順：ワークシートを回収してチェックする。 判断：3つ以上の質問が書かれていれば と評価する。 (単語を提示するなど書く材料を与える。)		

単 位 時 間	ねらい・学習活動	具体的評価規 準との関連	評 価 方 法 等
3	過去形の文の意味と用法を理解する。 (1) Warm-upとして、JTEとALTのそれぞれの高校時代の生活についての対話を聞く。 (2) 過去の出来事ついて話す時には過去形で表現することを確認する。 (3) 過去形を用いた文の意味と用法を理解する。 (4) ペアで、それぞれの中学校時代の生活についての対話を行う。 (5) 絵を見て、その動作を表す動詞と過去形をワークシートに記入し、答えを確認する。	関心・意欲・態度	方法：活動の観察 <input type="checkbox"/> 手順：うまく言えないことがあっても、工夫して伝えているかどうかを観察する。 判断：工夫して伝えていれば と評価する。 (話す材料や表現などを個別に指導する。)
4	過去形を使って積極的に表現する。 本時の本文の内容について概要や要点を把握することができる。 (1) ペアで、各自が昨日行ったことについての対話を行う。 (2) ビデオ(3分間)を観て、主人公の行ったことを過去形を使って3つ以上の英文で表現する。 (3) 本文をCDで聞いて具体的な内容を推測する。 (4) 本文を2分以内で黙読する。 (5) 次の3つのリーディングポイントに従って本文を読み、答えをワークシートに記入する。 ・中学校では何の部活動に所属していましたか。 ・なぜ、その部活動を3年間続けることが出来ましたか。 ・部活動で、一番思い出に残っている出来事は何ですか。 (6) 各自の思い出に残る出来事についてのスピーチを次回の授業まで作成する。	知識・理解 表現の能力 理解の能力	方法：作文チェック <input type="checkbox"/> 手順：作文を回収してチェックする。 判断：3文以上の英文を書き、過去形が正確に書かれていれば と評価する。 (動詞の原形を提示するなど書く材料を与える。) 方法：作文チェック <input type="checkbox"/> 手順：作文を回収してチェックする。 判断：ビデオの場面にふさわしい表現を選択し、3文以上の英文が書かれていれば と評価する。 (場面の説明などの補足説明を行う。) 方法：ワークシートチェック <input type="checkbox"/> 手順：3つのリーディングポイントを書いたワークシートを配布し、答えを記入させる。 判断：2文以上正解であれば と評価する。 (文構造などを個別に指導する。)
5	JTEとALTの対話の内容を正しく聞き取ることができる。 過去の出来事についてのスピーチを行う。 (1) JTEとALTが本文に関する対話を行い、その対話を聞く。 (2) (1)についての質問を読んで、ワークシートの選択肢から正答を選ぶ。 (3) 答えを確認する。 (4) 前回出された課題(思い出に残る出来事)についてグループ(5～6人)内でスピーチを行い、テープレコーダを用意してそれぞれのスピーチを録音する。	理解の能力 表現の能力	方法：ワークシートチェック <input type="checkbox"/> 手順：質問と選択肢を書いたワークシートを配布し、答えを記入させる。 判断：4つ以上正解していれば と評価する。 (聞き取りのポイントを個別に指導する。) 方法：スピーチチェック <input type="checkbox"/> 手順：録音された内容を後で聞き、伝えたい内容を話すことができているかチェックする。 判断：伝えたい内容について概ね話すことができていると評価する。 (話しやすい雰囲気を作る。)
後 日 (単元を終了した後、一定期間を置いた後の活動)	JTEやALTと英語で対話を行うことができる。 (1) JTEやALTと英語で一日の生活に関する会話をを行う。 (2) JTEやALTの質問に対して返答する。 作文課題 ・過去形を用いて、昨夜及び今朝行った活動について説明する文を20語以上で書く。 ペーパーテスト (1) 与えられた場面に応じて適語を補充する問題 (2) 場面を与えて適当な表現を選択する問題	理解の能力 表現の能力 表現の能力 知識・理解 知識・理解 知識・理解	方法：インタビューテスト <input type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> 手順：JTEとALTが生徒一人一人と個別にインタビューを行う。 判断：JTEやALTの質問を理解していれば理解の能力を と評価する。また、一日の生活を説明するのにふさわしい表現を選択して話すことができていると表現の能力を と評価する。 (話しやすい雰囲気を作る。) 方法：作文課題チェック(資料1) <input type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> 手順：作文を回収してチェックする。 判断：20語以上の英文で伝えたい内容が書かれていれば、また、過去の出来事を説明する時に使用する表現を用いていれば と評価する。 (書く材料や表現などを個別に指導する。) 方法：ペーパーテスト <input type="checkbox"/> 手順：解答用紙を回収して、チェックする。 判断：補充や選択ができている場合は と評価する。

(注)・「ねらい・学習活動」の欄の 印は各単位時間のねらいを、(1)などの番号は具体的学習活動の順番を表している。
・「評価方法等」の()内は、「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手立ての例を示している。
・各単位時間に示されている評価方法等は、すべてその時間内に評価することを意味しているのではなく、ワークシートや作文をチェックしたり、後日インタビューテストを実施したりするなど別の機会を設定し評価を行う場合もある。

(2) 観点別評価の進め方の例

観点別評価を進めるに当たっては、「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「知識・理解」の4つの観点ごとに学習活動の具体的な評価規準を設定する必要がある。

具体的評価規準は「おおむね満足できると判断される」状況(B)を示すものとして設定しており、この状況を実現していれば(B)となり、(B)の状況のうち、特に、質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合は「十分に満足できると判断される」状況(A)となる。また、(B)の状況に達していないと判断される場合は「努力を要すると判断される」状況(C)となる。(C)の状況の生徒については、補充的な指導など適切な支援を授業中に適宜行ったり、授業後に行ったりするなど、指導の手立ての工夫が必要である。

ア 関心・意欲・態度

具体的評価規準：ペア・ワークにおいて英語で積極的に話している。

評価方法：ペア・ワークの観察

評価の手順：第1時間目に観察する 第3時間目に観察する

評価の決定：それぞれの機会に、ペアで英語で話しているかどうかを観察し、話している、あるいは、工夫して伝えようとしている場合は とする。

	x	x	xx
A	B	B	C

イ 表現の能力

具体的評価規準：伝えたい情報を書くことができる。

評価方法：ワークシートチェック、作文チェック

評価の手順：第2時間目終了後に回収してチェックする 第4時間目終了後に回収してチェックする 後日作文課題をチェックする

評価の決定：3文以上の質問が書かれている場合は とする。また、3文以上の英文書き、場面にふさわしい表現を選択している場合は と評価する。さらに20語以上の英文で伝えたい内容が書かれている場合は とする。

	x	xx	xxx
A	B	B	C

ウ 表現の能力

具体的評価規準：一日の生活や過去の出来事を説明する場面にふさわしい表現を選択することができる。

評価方法：スピーチチェック、インタビューテスト

評価の手順：第5時間目終了後にチェックする 後日テストする

評価の決定：録音された内容を聞き、伝えたい内容を話している場合は とする。また場面にふさわしい表現を選択して話すことができているかをチェックし、選択して話すことができている場合は とする。

	x	x	xx
A	B	B	C

エ 理解の能力

具体的評価規準：聞いた内容について正しく理解することができる。

評価方法：ワークシートチェック、インタビューテスト

評価の手順：第5時間目終了後に回収してチェックする 後日テストする

評価の決定：4つ以上正解している場合は とする。また、教師の質問を理解している場合は とする。

	x	x	xx
A	B	B	C

オ 理解の能力

具体的評価規準：読んだ内容について概要や要点を把握することができる。

評価方法：ワークシートチェック

評価の手順：第4時間目終了後に回収してチェックする

評価の決定：それぞれの設問に適切に解答しているかどうかチェックし、2つ以上正している場合は とする。

A、B、Cの3通り。

カ 知識・理解

具体的評価規準：現在形・過去形の文の意味と用法を理解している。

評価方法：作文チェック、ペーパーテスト

評価の手順：第4時間目終了後回収しチェックする 後日テストする。

評価の決定：3文以上の英文を書き、過去形が正しく使われているかチェックし、正しく書けている場合は とする。また、適語を補充あるいは適当な表現を選択できているかチェックし、補充や選択ができている場合は とする。

	x	x	x x
A	B	B	C

キ 知識・理解

具体的評価規準：一日の生活や過去の出来事を説明する時に用いられる表現を知っている

評価方法：作文課題チェック、ペーパーテスト

評価の手順：それぞれ後日に実施し、回収してチェックする。

評価の決定：過去の出来事を説明する時に用いられる表現を使っているかどうかチェックし、使っていれば とする。また、適語を補充あるいは適当な表現を選択できているかチェックし、補充や選択ができている場合は とする。

	x	x	x x
A	B	B	C

(3) 観点別評価の総括の例

ア 観点別評価のパターン

4つの観点ごとに設定された具体的評価規準に照らして、A、B、Cの評価を行う。本事例の「関心・意欲・態度」のように1つの観点に対して1つの具体的評価規準を設定して評価する場合は、その結果が評価の観点の総括となる。

また、「表現の能力」のように1つの観点に2つ以上の具体的評価規準を設定して評価する場合は、「AB」や「BC」については、それぞれ「A」「C」とするなど、各学校の生徒の実態に応じて事前に決定した考え方により総括する。

関心・意欲・態度

A、B、Cの3通り

表現の能力

評価	A			B			C		
パターン	AA	AB	BA	AC	CA	BB	BC	CB	CC

理解の能力

評価	A			B			C		
パターン	AA	AB	BA	AC	CA	BB	BC	CB	CC

知識・理解

評価	A			B			C		
パターン	AA	AB	BA	AC	CA	BB	BC	CB	CC

イ 単元の総括の例

ここでは、各観点ごとに総括した評価の結果を基にした、単元の総括の方法を例として示す。下の表の組み合わせやその他の組み合わせの総括の方法については、各学校の生徒の実態に応じて事前に決定した考え方により行う。

組み合わせ	単元の総括
4 観点の評価の組合せが A A B B (A が 2 つ以上で他は B)	A
A あるいは C 以外のもの	B
4 観点の評価の組合せが C C B B (C が 2 つ以上)	C

C A あるいは A C は、B B と置き換える。

【評価表(Lesson2)の例】

科目名		英語		クラス		年組		教科担任氏名																										
出席番号	生徒氏名	関心・意欲・態度		表現の能力				理解の能力				知識・理解				単元の総括																		
		観	評	ワ	作	ス	イン	評	評	評	ワ	イン	ワ	評	評		評	作	ペ	作	ペ	評	評	評										
																									ク	文	ピー	タ	ク	ク	ク	文	バー	バー
																									シート	チ	ビ	ビ	シート	シート	シート	テスト	テスト	
1		A		x				B	A	A					A	A	A			x	A	B	A											
2		x	B		x		x	B	B	B		x			B	A	A		x	x		B	B	B										
3	x	x	C	x		x		B	B	B	x	x	x	C	C	C	x	x	x	C	C	B	C	C										

ウ 学期末の総括の例

ここでは、各単元ごとに総括した評価の結果を基にした、1 学期の総括の方法を例として示す。下の表の組み合わせやその他の組み合わせの総括の仕方については、各学校の生徒の実態に応じて事前に決定した考え方により行う。

組み合わせ	評価
4 つの単元の評価の組合せが A A B B (A が 2 つ以上で他は B)	5
4 つの単元の評価の組合せが A B B B (A が 1 つで他は B)	4
4 つの単元の評価の組合せが B B B B (すべて B) あるいは C B B B (C が 1 つで B が 3 つ)	3
4 つの単元の評価の組合せが C C B B (C が 2 つで B が 2 つ)	2
4 つの単元の評価の組合せが C C C B (C が 3 つ以上)	1

【評価表(1 学期)の例】

科目名		英語		クラス		年組		教科担任氏名	
出席番号	生徒氏名	1 学期					1 学期の評価	2 学期	
		Lesson 1	Lesson 2	Lesson 3	Lesson 4	Lesson 5			
1		A	B	A	A	5			
2		A	B	B	B	4			
3		B	B	B	C	3			
4		B	C	B	C	2			
5		B	C	C	C	1			

資料 1 「作文課題の具体例」

WORK SHEET Express Yourself 提出用 Class: _____ No: _____ Name _____
 Essay Title: What I did yesterday and this morning.

Pre-writing questions:

1. What did you do last night?
2. What subject did you study last night?
3. What time did you go to bed?
4. What time did you get up?
5. What did you see on your way to school?

Express yourself (20語以上であること)

【留意事項】

作文課題の作成に当たっては、次の点に留意すること。

英語で表現する意欲を喚起するよう、生徒の身近な題材を選択すること。

Pre-writing questions を導入として用いるなど、書く題材や表現を与える工夫をすること。

資料 2 「自己評価票の具体例」

自 己 評 価 票

Class: _____ No: _____ Name _____

『Lesson 2 My Daily Life』を振り返って、自分の学習状況について評価してみよう。

評価の欄に [A (よくできた) , B (だいたいできた) , C (できなかった)] を記入しましょう。

番号	評価	評価する内容
No.1		ペア・ワークやグループ・ワーク等で英語で積極的に話す。
No.2		スピーチで自分の伝えたい内容を上手く発表する。
No.3		ワークシートや作文で伝えたい内容を上手く表現する。
No.4		先生やALTとの会話などを聞き、会話の内容を理解する。
No.5		本文の内容を理解する。
No.6		現在形や過去形の文の意味や使い方を理解する。

【留意事項】

自己評価の実施に当たっては、次の点に留意すること。

生徒には、自己評価の結果を成績に組み入れないことを事前に説明すること。

評価する内容は、単元の目標に即した項目を設定すること。

今後の学習方法等の改善に結びつくよう、自己評価票を基に個人面談を行うなど、適宜、アドバイスを与えること。